

「阪谷の今を考える座談会」第9回 ご報告

開催日：令和6年9月12日（木） 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：15名

テーマ：阪谷の公共交通の今



◎ 第3回座談会でもテーマとして取り上げた「公共交通」。この時、区長会でも公共交通に関する勉強会を行い、阪谷地区では市のアンケートや聞き取り調査なども行われました。そして、その後、市では乗合タクシーの利用方法が変わったり、地区内でも柿ヶ嶋区で共助型交通の取り組みが始まったりと、新たな動きが見られます。

今回は、そういった新たな動きを、市の交通住宅まちづくり課や柿ヶ嶋区の方からお話を聞いて知り、将来の阪谷地区の公共交通について考えてみましょう!!

【事例発表等】

「公共交通関係の制度や補助について」

説明：交通住宅まちづくり課

「柿ヶ嶋区の共助型交通の取り組みについて」

発表：柿ヶ嶋うさぎ交通 山村福和 氏

【座談会の目的やルール】

[目的]

■ 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合っ、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。

(※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていたいただければと思います。)

[ルール]

■ この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考にさせていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いにOKですが、否定することはやめましょう。

[その他]

■ この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会の様子】



【座談会（第9回）で出た感想、意見等】

【事例発表後、2テーブルに分かれて、テーブルごとで下記テーマ等について意見交換】

第1テーブル

【全般】

- ◆ 免許返納を拒否する理由として、生きていく上で不可欠という状況において「生きる尊厳」にまで及んで指摘をされると、返納を無理に求めることはできないであろう。その時は家族の間においてルール作りをしていくしかない。
- ◆ いずれは免許を返納しなければならない時が来るかもしれないが、有意義に生きるための行動範囲を狭めるのは嫌だと思っている。その時は、行政が示してくれる公共交通の活用を考えたい。
- ◆ 運転についていろいろな苦手（例えば「バック」が苦手など）が増えてきたら、「命」を守るためにも返納しかないと思う。

【柿ヶ嶋うさぎ交通の事例について】

- ◆ 気楽に活用できるような状況を調える必要を感じた。
- ◆ 現実的な運用のためにはハードルが高い事柄が多いことがわかった。

【市の公共交通施策（乗り合いタクシー等）について】

- ◆ 「自宅まで」という魅力をうたい文句にしてはと思う。
- ◆ 一度体験してみることによって、案外楽で便利なものだということが分かるかもしれないと思った。
- ◆ 「いずれはお世話になる」という将来像を思い描く生き方も大切だと感じた。

第2テーブル

【全般】

- ◆ 今は事故時の責任のことなどもあってみんな敬遠するようになってきているように思うが、以前は頻繁に知り合いの人を乗せてあげていた。人と人のつながりの中で成り立っていたと思う。

【柿ヶ嶋うさぎ交通の事例について】

- ◆ うさぎ交通の事例を聞いて、うらやましいと思った。
- ◆ 対象の方が気兼ねして利用を遠慮してしまうという話があったが、わざわざ連れていくというよりも、「〇〇へ用事で行くからよければ乗っていく？」みたいな「ついで感」があると利用する方も気兼ねしないのではないか。（そのためには、互いの予定を情報共有できるようなつながりが必要ではあるが…）
- ◆ 利用者の気兼ねの話で、無料の部分で、例えば利用者が協力金（募金）や家で採れた野菜の差し入れをするなどといったことで、気兼ねする気持ちを和らげることができるのではと思った。
- ◆ 昔はサロンでバスを用意してみつわや VIO などの買い物ツアーを行っていた。体験してもらおうという意味で、そういったものを行ってみるのもいいかもと思った。
- ◆ ボランティアで取り組んでいる運転手の方にもっとスポットが当たる方法があるといいと思った。それが運転手の方やこの事業への理解や協力につながると思う。
- ◆ 柿ヶ嶋区での取り組みになるが、阪谷もほんとに人数の少ない区が増えてきており、そういった区ではなかなか区単独で取り組むのは無理かと思われる。そういったところは同じようなところが集まってやるなどして、できれば阪谷地区全体に広まってくれればと思う。
- ◆ 阪谷地区としてこういったものがあればとは思いますが、区の中であればだいたいが顔見知りなので抵抗も少ないが、地区全体となるとまったく知らない人を乗せていかななくてはいけないというケースもでてくるので、事故時の責任問題等も含めハードルが上がってしまう。ここでも人のつながりという面が関係してくる。

【市の公共交通施策（乗り合いタクシー等）について】

- ◆ 自家用車を持っており、これまで乗り合いタクシーを利用することもなかったので、あまり感じることもなかったが、たまたま怪我をして運転ができない時期があり、その時に乗り合いタクシーを利用してみて、使い慣れると非常にありがたいと感じた。行先である病院側も、リハビリなどの時間を乗り合いタクシーの時間に合わせてくれたりした。